

平成24年度研究成果報告書 <<平成23・24年度教育課程研究指定校事業>>

幼稚園・学校名 (園児, 児童生徒数)	国立 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校 (390名)
------------------------	-----------------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：〒 232-0061 神奈川県横浜市南区大岡 2-31-3

電話番号：045-742-2281

メールアドレス：hiromisu@ynu.ac.jp

学校のホームページの URL：http://www.yokochu.ynu.ac.jp/

【研究成果のポイント】

- 研究対象教科等：技術・家庭科（家庭分野）
- 研究のキーワード：問題解決的な学習，言語活動，家庭との連携，生活の課題と実践
- 研究成果のポイント：
 - ・ 問題解決的な学習において，習得した知識や技術を活用して実際の生活の中で見いだした課題の解決できる能力を育成するためには，自分の課題を見付けたり，考えをまとめ発表したりする過程で，ワークシートの形式やグループでの話し合い活動を工夫するなどの言語活動が有効である。

【研究の目的， 研究内容】

(1) 研究主題

言語活動の充実を軸に「学力の3要素」を育成する学習指導の在り方

(2) 研究主題設定の理由

本校ではこれまで、「PISA 型『読解力』」や「言語活動の充実」など，思考力・判断力・表現力等の育成に関わるテーマで研究を進めてきた。その中で，この能力の育成とともに知識や技術がより定着することや，主体的に学習に取り組む態度も育成されることが明らかになってきた。そこで，本研究では「学力の3要素」の各要素の関係を踏まえ，これらを総合的に育成する指導の在り方について，問題解決的な学習における言語活動の充実を中心に検討することとした。

(3) 研究体制

- 本校の過去の研究を基盤に，本校「研究会」（月1回以上開催）でも積極的に意見をもらいながら，技術分野と協力して研究を推進していく。
- 大学の附属学校であるという利点を生かし，大学と連携しながら研究に取り組むとともに，他附属や一般校にも広く意見を頂きながら研究を進める。

(4) 2年間の主な取組の経過

平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容「C 衣生活・住生活と自立」の(1)「衣服の選択と手入れ」と(3)イ「衣生活についての課題と実践」の関連を図った題材の指導と評価の計画を作成した。 ○ 「衣生活についての課題と実践」における評価方法を検討した。 ○ 第1学年で「衣生活についての課題と実践」の授業を実施し，指導の効果や方法の改善について検討した。
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容「B 食生活と自立」と「D 身近な消費生活と環境」の(2)ア「環境に配慮した消費生活の工夫と実践」との関連を図った題材の指導と評価の計画を作成した。 ○ 「環境に配慮した消費生活の工夫と実践」における評価方法を検討した。 ○ 第2学年で「環境に配慮した消費生活の工夫と実践」の授業を実施し，指導の効果や方法の改善について検討した。

- | |
|---|
| ○ 2年間の問題解決的な学習の授業実践を振り返り、指導方法の工夫改善について成果と課題をまとめた。 |
|---|

(5) 具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

- 衣服の手入れに関する題材で身に付けさせたい基礎的・基本的な知識や技術を明確にし、指導計画を作成した。
- 自分や家族の生活の中から課題を発見し、解決に向けて主体的に取り組めるよう、生徒の実態アンケートをまとめて紹介したり、実習を振り返って課題を確認したり、日常生活の仕方が環境に及ぼす影響についてビデオを視聴したりした。
- 課題設定と発表・改善の場面で、様々な角度から考えられるように、グループでの話し合い活動を取り入れた。
- 生徒の思考の過程がわかるようなワークシートを作成し、生徒が設定した課題に応じて助言できるようにした。
- 家庭での実践レポートに生徒の変容等を記入してもらうなど、家庭との連携を図り、生徒が一層達成感を得られるようにした。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

問題解決的な学習の授業実践を通して、以下の点が明らかになった。

- 自分や家族の生活を見つめて課題を設定できると、学習した知識や技術だけでなく、自分で調べたことがらも活用し、実践するなど、主体的な学習ができる。
- 話し合い活動を通して、お互いの考えや成果を共有することで、自分の課題や実践を様々な角度から考察することができる。
- 課題設定と計画、実践の見通し、必要な準備等を1枚のワークシートにまとめることで、生徒自身が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができる。また、授業者もそのワークシートから個々の生徒の状況を把握することができるので、個に応じた指導ができる。
- 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識や技術を十分に習得している生徒は、自分の設定した課題に対して、それらを活用して様々な角度から検討し、計画を立て、実践することができた。また、問題解決的な学習により、日常生活への関心が高まり、主体的に家庭生活に関わろうとする生徒が増えた。

(2) 研究成果の意義等

生徒自らが課題を見だし、その解決を図る問題解決的な学習は、習得した知識や技術を活用して、実際の生活において課題を発見し解決できる能力の育成に有効である。その際、ワークシートの形式やグループでの話し合い活動を工夫するなど、自分の課題を見付けたり、考えをまとめ発表したりする言語活動が効果的である。

また、家庭と連携した実践を通して、家庭での生活に関心が高まり、学習内容を主体的に実際の生活の中で生かそうとする生徒が増えてきた。

(3) 指定期間終了後の取組

指定期間で得られた成果を活用し、他の内容で問題解決的な学習を取り入れていきたい。また、生徒がまとめたレポートなどを展示するなどして、各家庭や他校の教員に広めていきたい。